赤澤常道著

魂の入替

東京書林　山中市兵衛藏兌

玉の入替序

玉一匣二嵐山の巖市の稼米の
ほ拔殺して。魂合る昔より友の超
過さ。玉盞巴る逆さ。己で
去。誤りの付て。伊靈魂の事か

樂川酒井

赤澤常道著

魂の入替

東京書林　山中市兵衛發兌

磯川酒井

玉の入替序

玉匣二荒山の巖寺、椽朱の印を捺して、祝合る昔よりの友の紹介を、遥き雲井、玉ぼこの道をたどりて、伊霊魂の事か

852
46

さく咲し梅りぬ。閑よ鏡地玉北
の御を弱るか同しく。恵より誰
を公玉乃。老せよ同しき情火を
見まい。則魂と見夢えし人を魂
この見る。以て如我こそ其魂の由来

を云と説んと。霊言八百の玉丸
し。磬悔法螺を福神のよ抜つ
玉を如意宝珠。見のら出法華経
次第。玉屋と言中よ龍を火玉
小玉の吹分事。空気ふを経

種々色の光明を自然の理、虚
空と哭々ぬが理、目玉を見る
ごとく明らかなる魂の入替を
明治七年九月山人自ら記
文中ムゴザルとゝもむべし

赤澤常道著述魂の入替

サテ世の中も追々文明開化ゝ相成、國中へ學校を御取建ゝ成り、六歳以上の子供い入校して、内外の事を學び、如何成邊鄙でも、無學文盲のものゝ無いやうゝ為さるゝ云い、誠ゝありがたい事で
ムるが、其子供ゝ追々開化ゝ赴きまゝ出やうが、從
来無學の親々ゝ實ゝ頑固ゝて困りましたりの
で、學校へ子供を遣るを、御用で人足ゝでも使役

書店まて本を求る圖

る、やうな思ひ、種々苦情ぶどを唱へ心得違ひ
ふ者もムるさうで、却て子供ゟ議論されて、毎度
困却の事が在りますゝ、此間其書肆へ参て買
物を致して居りますと、年齢五十斗りの男、本肆
へ来りヘンゴンタンを賣てくれろと申せと、店
丁が、ソレハ、小西と云此先の藥室ゟ買りまんと
申したら、ナニ、藥屋でも學校の書籍を賣るゟと、
既ゟ立出んと為る時、流石主人ゟ主人だけで、モシ
貴丈の御尋為るゟ、若哉單語篇ていムりますね

のと云と、成程其單語篇で在つたと、求めて歸りましたと、其跡で、どうして主人を、ヘンコンタンを、單語篇と御悟為さるとさと聞き所が、どい、ケ樣でムりまして、從来の書名とい、當今の表題を違ひまして故、單語篇を顛倒ふ覺えて来さるので、夫を店丁を、返魂丹と聞誤り、藥室と有ると教へましさものてムりまして、果を大笑の事でありましさで、都てもん亦事が、世間よを聞ゃある事でムりまして、ヤトキニ、返魂丹と云事で發念ましさこの、子供

を學問を精を出しましたんこの、追ゃ開化よも赴きましゆうが、今のヘンコンタンの連中を、兎角舊嗅を染附、毎事談話上よも私見を加へ、夫を子供を迄も咄して聞かせる故、余程開化進歩の妨げを為を事でムるが、彼返魂丹、又を返魂香亦と申物を字義の上てい、魂を返をといふ意故、名實正亦物亦ら、從来の舊弊魂を返却し、開化魂を入替を、道具よを為りましたこの、夫とも外よ妙工夫が在ましゆうこレハ御尤の御存知付でム

る只令の御咄の返魂香や返魂丹を、とても無益
な事でムるこの、近来西洋の學術盛んに行はれ、蒸
氣の舟車、テレガラフ、家建の趣向、金銀銅鐵の細
工、醫術も勿論衣類食物の事迄、百般の美事、悉皆
之を彼に取る、實に開化日新の秋にて、恐らくは、
歐羅巴洲の開化にも劣らじ、東洋中にも、皇國を
以て開化第一と為せよ、加之、皇國は神代より、
固有の神隨と云道のムつて、是又外國に比類無
き尊き道で、此人間上の事も、今上皇帝の叡慮を

以て、万民保護の御政を施し給ひ、幽界の事も、出
雲の大社に鎮り坐せ、大國主の大神主宰し、實に
顯幽二界の保護にもとづき、人々正直誠實の心あら
ば、其幸福を下し給ふも亦速このある事で、難有事
でムる、只令御咄しの、魂の入替の事につき、奇代
な説を申しませ先生ガムるこの、其先生も自ら開
化道人と号し、何所の御仁に存じまぬこの、此間
或講席で、御講義を拜聽まして、其大槩を御
咄しまし、先人間万事正邪善惡、心の赴

くして隨て、事業みな其域を異にして、乍去、素人間の魂と云ふものも、神明の御授け下さるものにて、此魂の事も、未だ委詳辨じ難きものの、此魂と云物、乃ち一身の主宰にて、心を膽とし、四肢も耳目口鼻も、皆魂の司令を受るものでムる、神道にも、先鎮魂祭を初として、其魂を和め、清淨潔白正直の魂に致し、諸の祝詞を告げて、神に祈り幸福を願ふ事にて、先我魂を鎮め、不動樣に致せば、素より神の附與あられし、清淨潔白の魂なる故に、百般の學事、

又い世間活物の究理上に於て、正邪善惡の見分け明瞭に相成り、赴くところ悉皆善美を盡し、物に凝滯無くして、自然開化の域に至るものでムる、縱令いの樣學問しても、魂の茫然として、決して目的不定終身無益の事に盡力して、一事有益の業を果す事能はず、此上も無き遺憾の事でムらぬ、夫故に此魂の動かぬ樣に、毎朝自分の鎮魂祭を為るより外の手段なし、先神に向ひて告ぐべき祝詞にて、掛巻母畏伎、天御中主尊、

神産靈尊高産靈尊ノ大前ニ、畏美々ノ白ス事ノ由ハ、吾身ニ附與賜シ御魂、五月蠅為ス世上ノ醜態、又ハ牽強附會説ニ迷ヒ易ク、何ノ道ガ善、何ノ態カ正、執ル可ク、捨ツ可クノ見別ニ疎ク、斯ク在リテハ上ハ君ト親ニ事ヘ、下ハ吾身ヲ立ル事ノ目的ヲ失ヒ、終身一ノ善事ヲ為ス事ヲ得ズ、人ト生ル、甲斐無キノミナラズ、廣キ厚キ大御神ノ御慮ニモ違ヒ、其罪咎ノ贖フ時無ク、泣キ事ノ限ナレバ、憐レ三柱ノ大御神、高天原ニ、小男鹿ノ八

ノ御耳振立テ、乞祈事ヲ、甘ラニ聞食ヒテ、此魂ノ邪説ニ觸ル時ハ動ク事無ク、善事ニ觸ル時ハ一向ニ入レ叡メ、毎事其見分ノ明ナル事、鏡ニ物ノ寫ル如ク、善事ニ赴ク事ハ、水ノ低キニ至ル如ク、幸ヘ賜ヘト、畏美々ノ白ス、斯くの如く毎朝神ヨ告し、其神ヨ告さし言を忘るゝ事ふゝとゝ、自然と心も爽然と成り、第一神經静りて、物ヨ觸るとも軽々敷動こゝ、善と惡との見分定り、何事を為しても速ヨ成功せるものでムる、又一説ヨ魂

と云物も、神の附與し賜へるい素より當然らと
まて、眼は見、口は味ひ、耳は聞き、四肢の働き、こゝ
魂の司令る所まて、實は一身の主宰、尊き物の
極度まて、其在る所も、腦膸とて、頭盍の中は太切
の物在りて、其中は宿り在もあり、去もとも、腦膸の
多きものい怜悧、少きものも癡愚あるものまて、
獸の中まても、猿も頭大きく人の形は似たり、夫
故は智も外の獸より多く、馬や兎も頭少く、腦膸
不足ある故、智も乏しと、此説理あるは似たると

も、天窓が大きくば、智恵のあるといふ義はも
いつまでく、福助の天窓も極めて闊大あるとも、拔
群敏捷といふ事もきこのざれば也、尤智も何ほど
あつても、無益の智あるも無きは均し、今茲は一
男子あり、少年時より寒暑を不厭、螢雪の窓は書
を讀み、詩文詠歌、何一つ出来ぬと云業もあるも
ど、心の目的確乎たる所を得ざれば、只々議論高
尚はの走り、一つの善事を成したる事あく、又
も山水の風致を愛し、詩文詠歌は心を勞しあと、

何の益もなきのみならず、却て人の耳目を迷さし、まろしこうらぬ事でムる、令爰に一人有り、此人い只司令なる人の命を奉て、車を曳き、又は土を荷ひ、至て智ふかきなく様なれども、世間に益をかを事に、前の大先生よりい却て多く、おもい、已が分を守りて、私見を加へざれば、此人は、少しでも有益智なり、前の先生は、多くても無益の智あり、是は魂の司令を受る所、只正邪はあるのみ、昔より魂の事は、種々に説もムる故、こともよく

見分ばありませぬ、ダガ、一通りおそなへ申せで、只霊妙不思議なるものよりて、先此人体と云を注い、最初父母の妙合よりて、此体の芽を生し、神の附與よりて魂のよりつき、天地運転の時季よりて胎を出で、父母の養育よりて体を伸べ、師の教へよりて道を學び、己が心の活動よりて立身出世もする事よりて、出胎の後は、ふ魂の司令を受けて動くゆえ、其魂たしかなれば、事業も亦従つて正しきを得ず、即今の子供は、世間も追々開化

の人多くあり、又も學校の設けをば、自然と
塊の起き方も、正しき道に至りまして、是迄
は人の魂も、中々容易に直しの付く事でも
ふるまい、夫故に人智人術の及ぶる所も、神構
も御願ひ申そより外にもムりませぬ、サテ扨と、魂
の由来の聞學咄し、サゾ御睡氣を催しましやう、
睡氣醒しに今一席、私の杜撰のおはなしを申さ
ましやう、只今も申通り子供も兎もいと、中年以上
の人の塊も、所詮入替かけをば、從前の迷ひも

凡ソ兒ヲ孕スルノ始メ母ノ血巣ノ外膜ノ絡テ胞衣ト終ニ成シ其中ニ二支別ノ動脈ヲ又ヲ靜脈ノ

もまぜぬご其入替る所を、いづくの所がよろし
うらんと、種々思案致して見ましに、之ぞ臍より
入替るに違ひなく、粗決定致しまして、先人間の
体中に、毛髪を始め、四肢耳目鼻口、何とも一瞬間
も動き働こぬ所なく、實に繁忙きわまるに、獨
り臍のみ体中の本府に安座して、局外中立の氣
象あり、尤此の臍と云物も、胎中に在つても頗る
盡力せしものにて、頭書に在る通りのとけ出る
に、其功績によりて、出胎の後も安閑無事にて

中ニ連ヲ臍帯ヲトナ常ニヨリ胞衣往来シ血ヲ養ヒ栄シ生育ス為ナレリ然リ臍孔ヲタルモ胎中ニ在テハ緊要ノモノミルベシ

隠道なるものゝ如き欤、其理不分明なれども、一体なるものへツと云ふ名の義によつて考ふるに、へツは素ホゾの訛にて、ホゾのホゝゆゞて火にて、ゾは水溝などのゾにて、物の窪き所の名、又火は霊あり、霊の窪き所にて義理通じ兼る様なれども、霊は魂なれば、ソは轉用し、霊門とも云べし、古典にも、魂は一柱の神にても、幾つも有るものと見えて、荒御魂、和御魂、或は大國主の神の別御魂、海原などに寄り来ませしを、御身なるゆゑなり

或曰へツハソトハ経素ナリト神伐紀ニ齶肉ノ窒國トアリテソジノソハ空シキ意ナレバヘツノソハ是ト同シニシテハ年経ト

ろしめさで、物言ひこうはしてのち、別御魂あるとをきとり給ひしおど、又は今の人も、其身は睡りて死せる如しといへども、魂は外に出て夢想を送るおど、ゆゞしき魂の出入する所の、無くていあらぬ事あり、夫故に今斯の如く考ひを定め前に云所の、朝夕の神拝に、已ぞ魂の入替をば、此臍によて成し賜へと、毎に尊き所と思ひて、臍の恩を忘れ給ふ故、人もいきぐや、臍と比べて思案せよ、或は臍下丹田に慮を練る、又は俚俗にも、雷

同ジク事ヒ経ヲ住ミテ只ノ下ニ休ミ給ヒ中空ニ年ヲ経レバコノ名ヲ得ルナシト云々

書紀曰于時神光照海忽然有浮来者云々是時大己貴神問曰然則汝是誰耶對曰吾是汝之幸魂奇魂也大己貴神曰唯然迺知汝是吾之幸魂奇魂今欲何處住耶云々

大國主神和魂と問答の圖

の鳴る時は、用心して臍を隠せおど、皆られ、由緒のある事なれば、疎なおひ給ふおおこう其内なも、大笑をなを、臍がよをる、冷笑ををば、お臍が茶を涌をおどい、其経絡の通ずる意を表して、題をるものなて、深理ある事なもあらず、又此程、本教大基と云書物を見しは、吾皇國を、地球上の脳膸なて、實は神明の府、靈魂の宿所おをば、此上も無き、尊き國おる事、故事なより、又は西洋の諸説を参考あるをて、委詳は説あう、誠は愛度書物

なてきをあをてうらんと覺えたり、今云とあるの、臍の論は、地球上おをば、歐羅巴洲の地位はあるとり、其臍の地の歐羅巴洲は、早く靈門より開化魂の入替り、今日開化の事を説くもの、歐羅巴洲の上は非るはおし、其開化魂を宿をる脳膸は、吾皇國おをば、臍よりいさ〳〵こ後るゝといくども、終は、其司令の主宰、在所おをを、何ぞ外國の開化として恐るゝは足らんや、さをども、孤陋管見なて、江湖を切々の物と見て、吾國丰り國だとお

ふ頑物よい、此臍の論も解難うるべし、前よも申を通り、吾國も、造物主の、別て御恩頼幸へ賜ふ事ふをば、天子様をば、現人神とあがめ、幽界の事も、大國主の神の、御掟ひもあるを、祈れば甲斐ありと、守をば益なり、何でもケでも、御上の司令ふ従ふが、生た魂の司令ふ従つて、四肢耳目鼻口の、働くふ同ト事ふをも、能其分を守りて、政令ふ従ひ、今日御世話ふさるゝ所も、ふ各々の、魂の入替の御世話と心得るが宜しいと、人の欠を為るふも不要、臍と魂との混雑咄、口のら唾の速玉男、塊消た虚を月夜見の、闇ふ鐵炮的も無き、玉の出入るホドとやら、後口不合牽強附會、嗚呼此人の口をして、臍の如しふ沈黙も、よろしのらんと、人もりふ先り

魂の入替畢

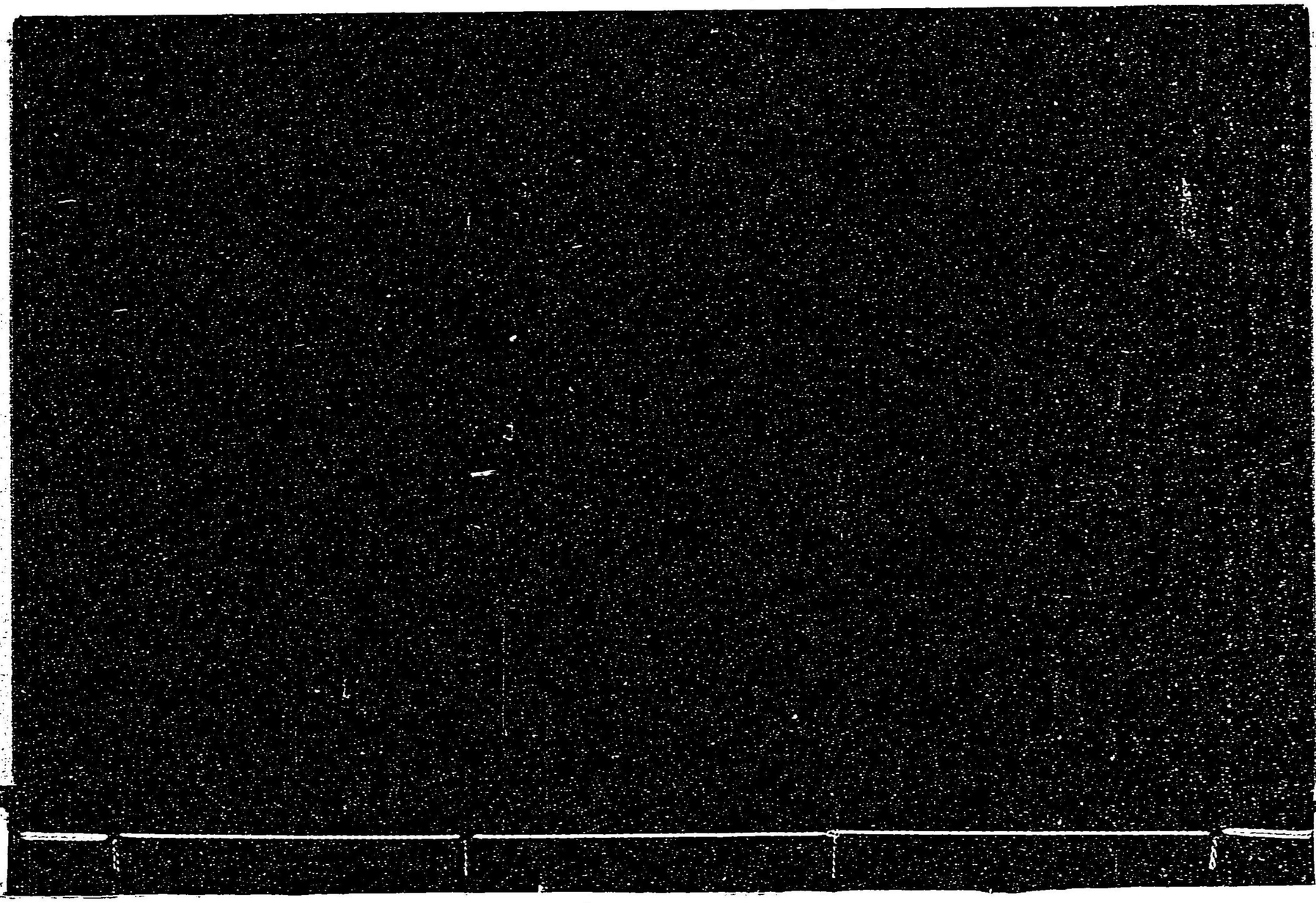
852
46

訓蒙國史畧
世界不思議　全四冊
小學假字格　一冊
究理便解　六冊
母の導き　二冊
新撰字解　一冊
萬國地理啓蒙　追々出板

米國史畧　二冊
會話讀本　二冊
漢語文章　二冊
同書帖在自　二冊
西洋言行錄　二冊
日本外史字引　二冊
三ッ切
布告類編　追々出板

官許

日本橋通一丁目　北畠茂兵衛
同二丁目　猶田佐兵衛
芝三島町　山中市兵衛



852
46

014381-000-0

852-46

魂の入替

赤沢　常道／著

M7

ABB-0746